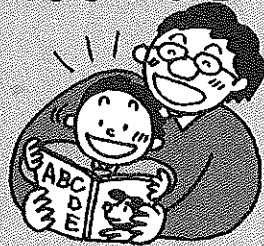


「女性だから」「男性だから」と、生き方に枠をはめていませんか？

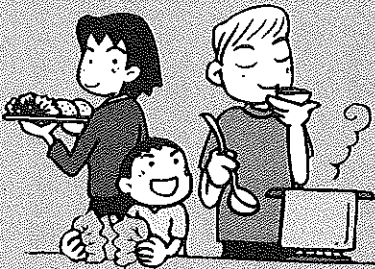
お互いを対等なパートナーとして尊敬し、自分の意思で社会に参画し、喜びも責任も分かち合う社会。
そんな、活力ある男女共同参画のまちづくりが、甲西町でも進められています。

子育ての大切さ
お父さんも一緒に...



育児
では

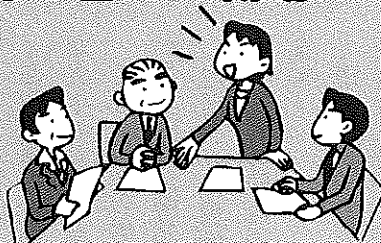
家庭の仕事はみんなで



家庭
では

男女共同参画社会って...どんな社会？

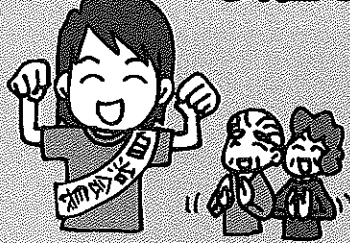
男女とも
認め合える職場に



職場
では

地域
では

町内会の役員に
女性も参画



※よろしくお願ひします※

リポーターメンバー

- 井上多美子
- 喜多美子
- 上西由美子
- 豊永由美子
- 中森静恵
- 西川静恵
- 濱田重勝
- 藪田重勝



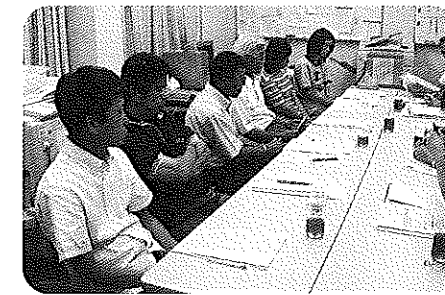
男女共同参画リポーター会議

創刊にあたり...
男女共同参画リポーターは、地域に根ざしたまちづくりを進めるため設置され、今年で5期目となります。今回、「イワタニランド区」三役の皆様と生田病院の「お二人」を訪ね、広報紙を作成しました。どうぞ、ご覧ください。

イワタニランド区の女と男

こなまちです
イワタニランド

昭和47年頃から家が建ち始め、現在では約650世帯からなる新興住宅地です。近くには大山川が流れ、近くを走る名神高速道路からの不法投棄が後を絶たないため、淡海エコフスター制度に登録し、月2回のパトロールを実施するなど環境美化に取り組んでいます。



イワタニランド区三役様との懇談会

女性の発言や出席も多く
役員も女性が積極的に！

年一回の総会では、約150人が出席します。男性と女性の割合は6対4で、女性からも意見が活発に出ています。座る席も年長者、男性は前ということはありません。会議の後片付けも全員でやっています。
また、これまで自治会の中にあふん部がありました。各行事の負担が大きいことからこの6月に発展的廃部となりました。



活躍する2人の女性役員

甲西町で一番早く
女性自治会長
誕生の予感！

取材は、和やかな雰囲気の中で進み、役員の皆様の男女共同参画に対する意識の高さを実感しました。

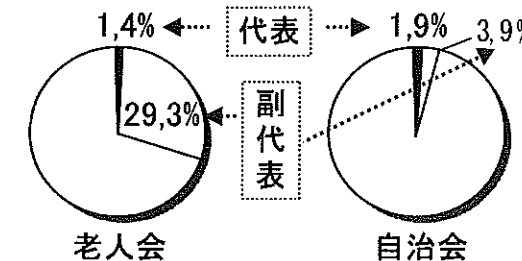
イワタニランド区のように、男女が地域の一人として活動し、より住みよいまちにしていきたいものです。



役員は、入居順に世帯に課せられ、20人で構成されています。その中で女性は会計2名のほか、会館管理など7人が活躍し、男女で一致協力のもと自治会運営にあたっています。
また、区長などに女性が就いても何ら問題はありません。しかし、そのためにはハードな職務と家庭との両立について、家族の理解と周囲の協力が不可欠だと思います。

滋賀県の実態 H15年

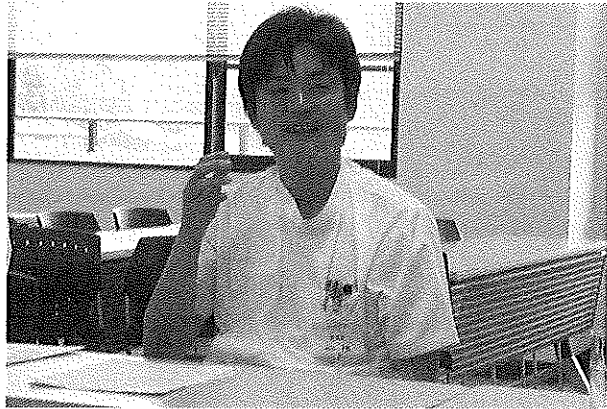
女性の役員の比率



20人中7人が女性

女性の役員は全体の35%

イワタニランド区は男女全員参加で、自治会運営が...



看護師
田中邦徳さん

～共に～ 輝いて 活き活きと!

「男だから〇〇の方がいい」「女だから〇〇に向いている」ということに
こだわらずに、自分の選んだ仕事でいきいきと
暮らしている人も増えてきています。

現在、生田病院に勤務されている、外科医の藤田美奈子さん、
看護師の田中邦徳さんにお話を伺いました。



外科医
藤田美奈子さん

外科医は男性の仕事?

外科は男性というイメージが強く、また、時間を問わない仕事なので、家庭や子どもを持つのは無理という雰囲気があります。

私は呼吸器外科を専門としていますが、女子学生がどの科にするか決める時に、結婚や子育てしながら働く環境が整っている分野を選択する人が多いです。私も悩んだ時期もありましたが、自分の夢をあきらめるのは嫌だったので、初志貫徹でこの道を選びました。

私より後の世代では、外科の医局にも女性がコンスタントに入ってきています。

仕事もしたいし、子育てもしたい!

今、二人の子どもがいて保育園に預けています。迎えが遅くなる時は人に頼んだり、子どもが熱を出した時は、病児保育に預けて働いてきました。でも、病気の子どもを人に預けて、自分は病人を診るということのジレンマに悩んだりもしました。

現在は、常勤ではなく、大学院に進学という形の中で仕事と子育てを両立しています。子どもを生んでも働きやすい環境づくりのために、私自身が仕事を続けていきたいと思えます。「継続は力なり」で、がんばります!

転職先は看護師!

看護師になる前は、家業の飲食店の仕事をしていました。ある時、看護師として働いている妻から男性でもなれることを聞き、看護学校を受験しました。看護師になろうと思ったのは、資格を取りたかったことと、人と接すること、特にお年寄りとお話をするのが好きだったからです。

三年間の学校生活では、男性もいて、特に違和感はありませんでした。不況のせいも、最近は男性の転職先として看護師を目指す人が多いようです。



看護の内容によつては

職場の看護師はやはり女性が多いのですが、男性だから困るということはありません。でも、若い女性に夜間カーテン内で点滴する時や女性のおむつ交換の時に患者さんが嫌がったり恥ずかしがったりして、代わるよう言われたこともあります。

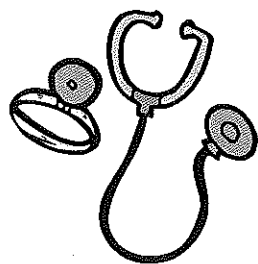
また、看護師ではなく医師と間違われることもあります。まだまだ、看護師は女性というイメージがあるんでしょうね。

たくさんの人との出会いが

この仕事に就いて、いろいろなかたに出会い、いろいろな人生のお話を伺えることがとても楽しみです。でも、年配の男性の中には、「女性の医者で大丈夫か?」という偏見をもたれるかたもいます。

患者さんは男性、女性に関係なくいらっしゃるので、どの分野の医師も男性、女性どちらもいてよいと思います。

現在、医師の三人に二人は女性です。何年か後には女性の医師の存在が社会の中で当たり前になると思います。



華奢で優しい印象の藤田さん。「私など最も外科を選びそうにないとみんなから思われていたんですよ」と明るく話してくださいました。

仕事に対する志を買かれながらも、結婚・子育てを大切にされ、子どもさんの成長に合わせて働き方を選択されている自然な生き方に、さわやかな元気をいただきました。

人とふれあえることが最大のよこぎです

毎日、患者さんと接する中でいろいろなお話をしますが、患者さんの昔の話や元気な頃の話を花が咲きます。会話を通して、患者さんの精神的なケアに役立つときはとてもうれしく感じます。

看護師の仕事は、夜勤など体力勝負のところもあるのですが、今まで男性が少なかったのが不思議です。この病院では、二人の男性看護師がいますが、これからもっと増えてほしいと思います。

資格や適性を考えて転職された田中さん。若くいきいきとしたその姿に元気をもらい、安らぎを得ている患者さんも数多くいらっしゃるんですよ。

お話を伺いして、患者さんのお世話をしながら楽しくお話ししていらっしゃる様子が目に浮かぶよかったです。

